



S.Setoguchi

サマースプリントシリーズ

## THE CBC SHO

## 第61回 CBC賞 (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着  
本賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円  
付加賞 630,000円 180,000円 90,000円



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

3歳以上、2024.8.3以降2025.8.3まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 ハンデキャップ

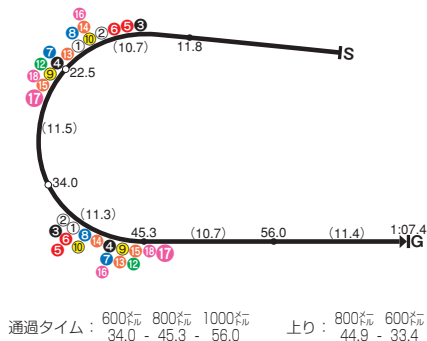
2025.8.10 中京 曇・良 芝1200m (国際) 特招

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	インビツブルババ	牡 4	57	佐々木大輔	1:07.4	1-1	33.4	512(-2)	13.9⑤	伊藤大士(美浦)	111
2	⑨	ジューンブレア	牝 4	55.5	武 豊	1/2	4-5	33.0	490(±0)	3.2①	武 英智(栗東)	106
3	⑤	シュトラウス	牡 4	57	杉原誠人	クビ	16-13	32.6	534(+10)	12.0④	武井 亮(美浦)	108
4	③	ドロップオブライイト	牝 6	56	松若風馬	クビ	17-16	32.3	438(+2)	10.2③	福永祐一(栗東)	105
5	⑬	カルチャーデイ	牝 4	55	横山典弘	1	2-3	33.4	432(±0)	15.1⑥	四位洋文(栗東)	
6	⑩	ベガリス	牝 5	54	藤懸貴志	アタマ	2-2	33.5	440(+2)	30.5⑩	高橋義忠(栗東)	
7	④	クラスベディア	牡 3	55	小崎綾也	3/4	6-7	33.2	500(±0)	60.0⑬	河嶋宏樹(栗東)	
8	⑬	ジャスティンスカイ	牡 6	57.5	荻野 極	アタマ	8-5	33.3	540(+2)	16.2⑦	友道康夫(栗東)	
9	⑩	メイショウソラフネ	牡 6	57	酒井 学	クビ	11-7	33.3	452(-2)	31.2⑩	石橋 守(栗東)	
10	⑩	ワイドラトゥール	牝 4	55.5	西塚光二	クビ	15-13	32.9	420(-10)	18.0⑧	藤原英昭(栗東)	
11	⑩	ボッドベイダー	牡 3	55	角田大和	ハナ	11-11	33.1	484(+6)	77.7⑭	上原佑紀(美浦)	
12	④	ヤマニンアルリフラ	牡 4	57.5	団野大成	1/2	11-10	33.3	494(-2)	4.2②	斉藤崇史(栗東)	
13	⑦	グランテスト	牝 5	54	小沢大仁	アタマ	6-7	33.4	492(+14)	19.3⑨	今野貞一(栗東)	
14	②	ティエムリストット	牡 4	56	川須栄彦	クビ	14-16	32.9	478(+2)	61.5⑮	秋山真一郎(栗東)	
15	②	エイシシワンド	牡 3	55	吉村誠之助	3/4	4-3	33.9	482(±0)	23.9⑪	大久保龍志(栗東)	
16	①	バルサムノート	牡 5	57	北村友一	ハナ	9-13	33.3	510(-4)	25.7⑫	高野友和(栗東)	
17	⑧	ミルトクレイモア	牡 5	54	田口貴太	クビ	9-11	33.5	516(-4)	34.2⑯	中村直也(栗東)	
競馬	⑩	カリボール	牡 9	56	A.バテル						西村真幸(栗東)	

単勝⑦1,390円(5<sup>▲</sup>%) 複勝⑦360円(4<sup>▲</sup>%) ⑨160円(1<sup>▲</sup>%) ⑤410円(6<sup>▲</sup>%) 枠連⑤-⑧1,020円(3<sup>▲</sup>%)

馬連⑨-⑦2,090円(3<sup>▲</sup>%) ワイド⑨-⑦990円(4<sup>▲</sup>%) ⑤-⑦5,300円(67<sup>▲</sup>%) ⑤-⑨1,310円(11<sup>▲</sup>%)

馬単⑦-⑤6,120円(11<sup>▲</sup>%) 3連複⑤-⑨-⑦15,520円(44<sup>▲</sup>%) 3連単⑦-⑨-⑤96,460円(268<sup>▲</sup>%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m  
34.0 - 45.3 - 56.0 44.9 - 33.4

### アラカルト

- ・佐々木大輔騎手はCBC賞初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算6勝目
- ・伊藤大士調教師はCBC賞初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算3勝目
- ・Shalaa産駒はJRA重賞初勝利
- ・4歳馬の勝利は23年ジャスパークローネに続く通算17回目
- ・ハンデ57<sup>kg</sup>での勝利は06年シーズトウショウ以来19年ぶり、通算2回目(別定戦だった66年~05年は除く)
- ・カリボールは疾病(右前肢フレグモネ)のため出走取消
- ・ドロップオブライイトの幸英明騎手は前日の中京競馬第4競走での馬場入場後の落馬負傷のため松若風馬騎手に変更
- ・非抽選馬 1頭(バッドシェル)

# ⑧インビンシブルパパAUS *Invincible Papa*

牡 鹿毛 2021.9.17生  
 オーストラリア Arrowfield Group Pty Ltd生産  
 馬主・迫田三果子氏 美浦・伊藤大士厩舎  
 馬名意味・無敵のおとうさん

F10-c

Shalaa 鹿毛 2013	Invincible Spirit 鹿毛 1997	Green Desert
		Rafha
Shwaimsa 鹿毛 2013	Ghurra 鹿毛 2002	War Chant
		Futuh
	Canford Cliffs 鹿毛 2007	Tagula
		Mrs Marsh
	Sharp Point 栗毛 1992	Royal Academy
		Nice Point

5代までのインブリード：Danzig S4×S4 Sharpen Up M4×S5×S5  
 Northern Dancer S5×S5×M5  
 Doubly Sure S5×S5

## INTERVIEW

菅原通次代表取締役(ウイニングスタッド千歳・育成)

### 3歳時に「大物かもしれない」と思いました

2歳時、来日直後の調整を行いました。普段は大人しく、のんびりしていますが、ゲートに入ったとたんにやる気を見せるようなオンとオフがハッキリとした性格。芝もダートもこなせそうな走りをしていましたが、3歳時のグランアレグリアC(1着)を見て「大物かもしれない」と思いましたね。今回は人気がなかったですが、期待通りの結果を出してくれました。

S.Naka



引き当てた枠順は18頭立ての17番枠、しかし五分のスタートを切ったインビンシブルパパの佐々木大輔騎手は、他に主張する馬がいないと見るや、すかさず手綱を押して先手を奪った。これに対し、互角のダッシュで飛び出したジュニンブレアは好位勢の直後で折り合いに専念。ヤマニンアルリフらは後方馬群の外、3番人気に支持された昨年の覇者ドロップオブライトは最後方につけ、末脚勝負に構える。

そんなライバルたちを尻目に、主導権を握ってからはマイペースの逃げに持ち込んだ佐々木騎手は、直線入口からスパート。十分に余力を残していたインビンシブルパパは10秒台のラップを刻んで坂を駆け上がり、後続を突き放す。ゴールの間際では馬群を捌いて追い込んだジュニンブレア、外から伸びてきたシュトラウス、ドロップオブライトの強襲を受けたものの、坂上で開いたリードが「決定打」となり、そのまま逃走劇の主役を演じ切った。

9月生まれの豪州産馬とあってゆつくり態勢を整えられた本馬は、昨年2月にデビュー(3着)。ダートの短距離戦で実績を重ね、今年4月の京葉Sでオープン初勝利を挙げた。初めて芝に矛先を向けた前走の函館スプリントSでも、速いラップ(前半60.0、32秒5)を刻んで4着に逃げ粘り、高い適性をアピール。札幌から中京に駆けつけた佐々木騎手(前日にエルムSを制覇)と初コンビを組んだこの日は、「二刀流のスピード」を見せ付けて重賞初制覇を果たし、スプリント界の新星に名乗りをあげた。

### 父シャラー Shalaa

アイルランド産 英、仏8戦6勝(ミドルパークS・英<sup>G1</sup>、モルニ賞・仏<sup>G1</sup>、ジュライS・英<sup>G2</sup>、リッチモンドS・英<sup>G2</sup>)、2017年から仏、豪で供用  
 [代表産駒]ノースピークアレクサンダー No Speak Alexander(メイトロンS・愛<sup>G1</sup>、アサシS・愛<sup>G3</sup>)、モーニングングローリー Mornington Glory(A.J.モアS・豪<sup>G1</sup>)、セヴンヴェイルズ Seven Veils(リースリングS・豪<sup>G2</sup>)、リコメンデーション Recommendation(ゼディティヴS・豪<sup>G3</sup>、サージョンモナッシュS・豪<sup>G3</sup>、プレッチングリーS・豪<sup>G3</sup>、ブラックキャヴィアス・豪<sup>G3</sup>)、ジェニララ Jennilala(オーラリアS・豪<sup>G3</sup>、メイトロンS・豪<sup>G3</sup>)、シャケロ Shaquero(ブリーダーズプレート・豪<sup>G3</sup>、パゴパゴS・豪<sup>G3</sup>)、ウェルフルWelwal(フォンテンブロー賞・仏<sup>G3</sup>、ケヴィンヘファーナンS・豪<sup>G3</sup>)、インビンシブルパパAUS(本馬)、他に重賞勝ち馬多数

### 母シュワ임サ Shwaimsa

アイルランド産 北米、英7戦1勝

(18 不受胎)

サクセスフル Successful(19 牝父Shalaa)豪21戦4勝

マガンダンディラグ Magandang Dilag(20 牝父Real Steel)フィリピン9戦8勝(グランカボデマニラ)

インビンシブルパパAUS 本馬(21 牝父Shalaa)中央10戦6勝(CBC賞<sup>Gm</sup>、京葉S・L、グランアレグリアC) 獲得総賞金121,609,000円

ビドゥ Bidu(22 牝父Shalaa)

(23 牝父Trapeze Artist)

(24 牝父Trapeze Artist)

### 祖母シャープポイント Sharp Point

アイルランド産 愛、北米、英3勝(ティペラリースプリント・愛L、フィニクスS・愛<sup>G1</sup>2着、シルヴァーフラッシュS・愛L2着)

ニードルクラフトIRE(02 牝父Mark of Esteem)伊、独、仏4勝(クロエ賞・仏<sup>G3</sup>、セルジオクマニ賞・伊<sup>G3</sup>)、ファインニードル(スプリンターズS<sup>G1</sup>、高松宮記念<sup>G1</sup>、最優秀短距離馬、種牡馬)の母

メイフィールド Mayfield(03 牝父Danehill)豪、仏1勝、ギャラティンGallatin(タロクS・豪<sup>G2</sup>)の母

フラクショナル Fractional(09 驕父Manduro)仏9勝(ドラル賞<sup>G2</sup>、メシドール賞<sup>G3</sup>、ラクーブドメゾンラフィット<sup>G3</sup>、クインシー賞<sup>G3</sup>、トゥルジェヴィル賞・L、ドラル賞<sup>G2</sup>2着、ユジェヌアダム賞<sup>G2</sup>3着)シュワ임サ Shwaimusa(13 前出)

## 南半球産馬が持ち前のスピードで優勝

函館スプリントS(ハナ差2着から転戦してきたジュニンブレアと、シリーズ2勝目を狙う北九州記念の覇者ヤマニンアルリフらが双璧と目されたサマースプリントシリーズの第4戦・CBC賞。とはいえ勝利の軍配は未知の魅力に溢れた新星にあがった。全5勝をタートで記録している南半球生まれの4歳馬インビンシブルパパが、キャリア2戦目の芝コースで躍動。持ち前のスピードを前面に押し出して、重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

引き当てた枠順は18頭立ての17番枠、しかし五分のスタートを切ったインビンシブルパパの佐々木大輔騎手は、他に主張する馬がいないと見るや、すかさず手綱を押して先手を奪った。これに対し、互角のダッシュで飛び出したジュニンブレアは好位勢の直後で折り合いに専念。ヤマニンアルリフらは後方馬群の外、3番人気に支持された昨年の覇者ドロップオブライトは最後方につけ、末脚勝負に構える。

そんなライバルたちを尻目に、主導権を握ってからはマイペースの逃げに持ち込んだ佐々木騎手は、直線入口からスパート。十分に余力を残していたインビンシブルパパは10秒台のラップを刻んで坂を駆け上がり、後続を突き放す。ゴールの間際では馬群を捌いて追い込んだジュニンブレア、外から伸びてきたシュトラウス、ドロップオブライトの強襲を受けたものの、坂上で開いたリードが「決定打」となり、そのまま逃走劇の主役を演じ切った。

9月生まれの豪州産馬とあってゆつくり態勢を整えられた本馬は、昨年2月にデビュー(3着)。ダートの短距離戦で実績を重ね、今年4月の京葉Sでオープン初勝利を挙げた。初めて芝に矛先を向けた前走の函館スプリントSでも、速いラップ(前半60.0、32秒5)を刻んで4着に逃げ粘り、高い適性をアピール。札幌から中京に駆けつけた佐々木騎手(前日にエルムSを制覇)と初コンビを組んだこの日は、「二刀流のスピード」を見せ付けて重賞初制覇を果たし、スプリント界の新星に名乗りをあげた。